

# 街を行く

第32回 大垣 Ohgaki

## 立派な祖先に恵まれています

これまで移動手段として、基本的には公共交通機関を利用して街を訪ね歩いてきましたが、今回は初めてクルマを使いました。東京から楽々の運転（果たして本当か？）ですから、体力に余裕が持てた旅のようでした。名古屋あたりで少し疲れたものの、それでも岐阜を目指して木曾川、揖斐川、長良川を越え大垣市まで到着。市営駐車場に車を止め、いよいよ散策のはじまりです。実は大垣には十年前に一度訪れたことがあるのですが、その時は昼食を摂っただけ。実質的に今回が初の街歩きとなります。

ここは、言わずと知れた徳川の譜代大名、戸田氏が治めた十万石の城下町。皆さん譜代大名って解りますか？ 徳川家康を支えた生粋の家臣団で、天下分け目の関ヶ原の合戦に手柄を立てた兵どもの一角です。関ヶ原とこの地は目と鼻の先ですから、合戦時は武器や食料の調達・補給等の要所として大変だったでしょうね。

さて、街に目をやると、天守閣を核とした典型的な城下町を形成しています。街を流れる大垣運河が綺麗に整備され、たらい舟での周遊が観光の目玉のようです。考えてみれば運河はお城の内堀ですから、その規模がいかに大きかったかわかります。後世に残る立派な城郭を築くとは流石戦国大名は違いますね。観光資源としてたまたま利用しただけでしょうが、それでも大したものですよ。

運河の存在は歴史的に見ても格調があり、あの松尾芭蕉もこの美しさを沢山の俳句に残しています。小生も今回はじめ



左——5月の新緑の下で佇む松尾芭蕉とその弟子、曾良。奥の細道はこの地で完結すれど、南一弘の旅はまだこれからだ。  
右——戸田氏鉄により築かれた大垣城の外堀「大垣運河」。今は街のシンボルとして美しい景観を成す。過去の文化の継承や見直しが町おこしの原点だ。



て知ったのですが、「奥の細道」の結びの地がここ大垣だったとは…。結びの地とは最終地点、まさにこの地での完結。江戸を出発し奥州の平泉から山寺で有名な立石寺を経て裏日本の新潟、そこから南下して金沢・福井を回り大垣まで達したのです。以前、時代劇で芭蕉は幕府の命を受け隠密として諸国をめぐっていた話がありましたが、意外とそうかもしれませんね。当時はその様な旅は命がけであったはずですから。また、地元からは沢山の学者や文化人が輩出していて、当時は学問や芸術が盛んで独自の文化を持った先進的な街だった事がよくわかりました。芸術も含めて文化は街を構成する最も大きな要素です。欧州などでは文化の香りのしない街は街として認められないぐらいですから。今や、過去の文化の継承や見直しが町おこしの原点になっていて、日本全国その掘り返しに躍起になっています。立派な祖先を持つことって大きいで

すね。羨ましい限りです。同じ様に子孫に言われぬ様に良いもの残すように心掛けます。

夜は旧友と十数年ぶりに会って、美味しい料理とお酒に楽しい時を過ごしました。やっぱり街は昼も夜も楽しまなければ語れませんね。

### 南 一弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役役に就任。2006年株式会社ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役役に就任。

BLOG「南一弘の負けない不動産投資」

[http://blog.livedoor.jp/minami\\_kazuhiro](http://blog.livedoor.jp/minami_kazuhiro)